

令和 9 年度 第 1 回 京都大学大学院人間・環境学研究科 修士課程入学試験問題

専門試験

科目名：051.言語情報科学

(注意) 複数の設問がある場合、解答は、設問（ローマ数字のⅠ、Ⅱ……）ごとに別の解答用紙を用いること。

問題Ⅰ（共通問題） および 問題Ⅱ—Ⅴ（選択問題） のうちの任意の 2 題の計 3 題に解答しなさい。解答は日本語または英語で行い、日本語と英語以外の言語から例をあげるときにはグロスを付けること。

I. 【共通問題】以下の A-L の中から 4 つ を選び、それぞれについて具体例を挙げて説明しなさい。なお、問題Ⅰへの解答全体を解答用紙 1 枚に収めること。

- A) 語根 (root)
- B) X バー理論 (X-bar theory)
- C) 再帰性 (recursion)
- D) 脱範疇化 (deategorization)
- E) 存在のメタファー (ontological metaphor)
- F) 表意 (explicature)
- G) ダイクシス (deixis)
- H) 有標性 (markedness)
- I) 音素 (phonemes)
- J) アクセント (accent)
- K) 釣り出し装置 (fishing device)
- L) 逸脱事例分析 (deviant case analysis)

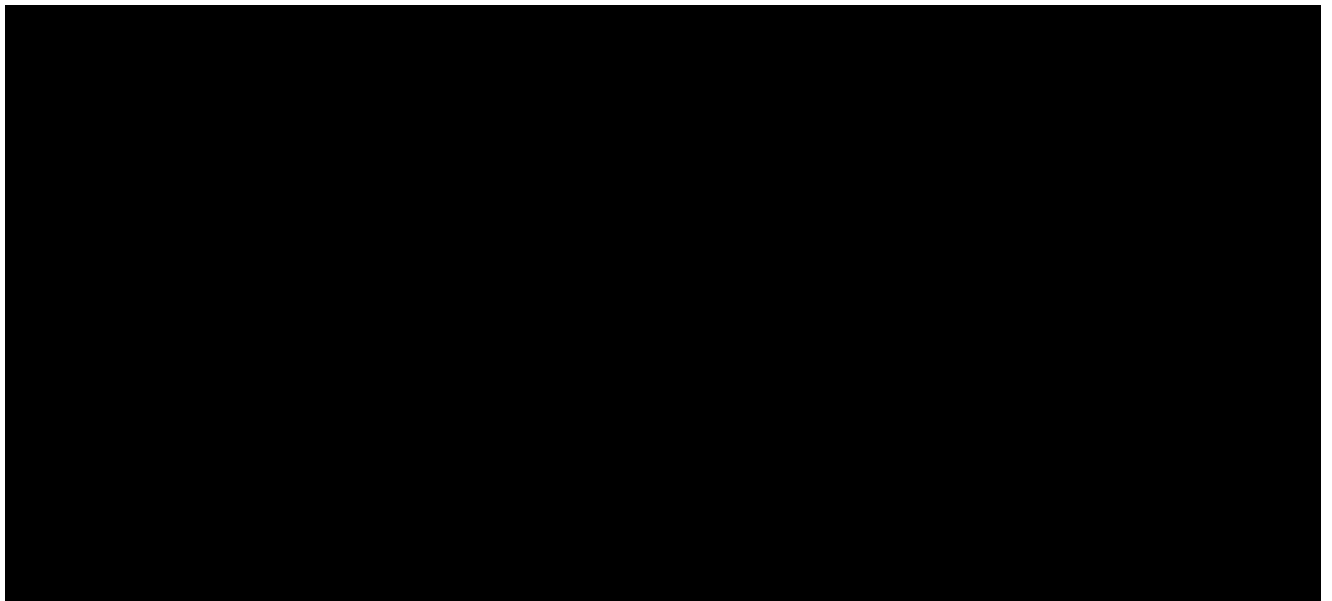
令和9年度 第1回 京都大学大学院人間・環境学研究科 修士課程入学試験問題

専門試験

科目名：051.言語情報科学

(注意) 複数の設問がある場合、解答は、設問（ローマ数字のⅠ、Ⅱ……）ごとに別の解答用紙を用いること。

Ⅱ. 【選択問題】以下の英文を読み、設問に答えなさい。なお樹形図は三角形を使用せず、構造をすべて示すこと。



- 問1. 上の文章について、(単に日本語に訳すのではなく) 主な論点を具体的に説明しなさい。
- 問2. (1)、(3)、(4) の樹形図を、X バー理論に基づいて書きなさい。
- 問3. (1) を日本語に訳しなさい。また、その日本語の文の樹形図を、X バー理論に基づいて書きなさい。
- 問4. 標準英語では、(3) より “Do you have a book on modern music?” の方が自然である。この文の樹形図を、X バー理論に基づいて書きなさい。また、この文と (3) との統語構造上の主な違いを説明しなさい。
- 問5. (5) を正しい英語に修正し、その正しい英文の樹形図を、X バー理論に基づいて書きなさい。また、その正しい英文と (5) との統語構造上の主な違いを説明しなさい。

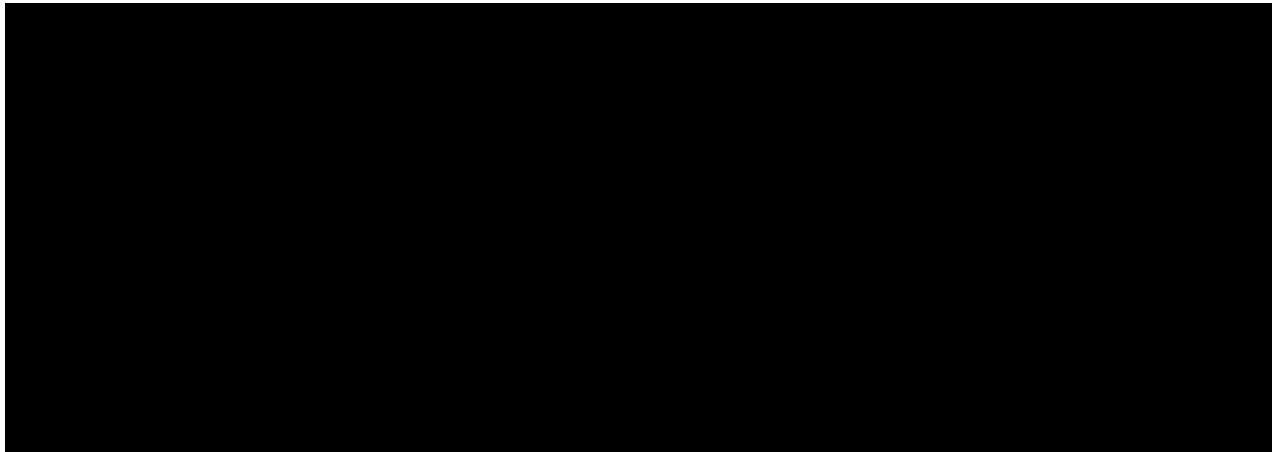
令和 9 年度 第 1 回 京都大学大学院人間・環境学研究科 修士課程入学試験問題

専門試験

科目名：051.言語情報科学

(注意) 複数の設問がある場合、解答は、設問（ローマ数字のⅠ、Ⅱ……）ごとに別の解答用紙を用いること。

Ⅲ. 【選択問題】以下の仏文を読み、設問に答えなさい。



- 問 1. 下線部 (1) を日本語に訳しなさい。
- 問 2. 下線部 (2) で述べられている *des formes qui constituent le paradigme d'un pronom* とはどのようなものを指していると考えられるか、例を挙げなさい。
- 問 3. この文では普通名詞と代名詞の指示の仕組みがどのように説明されているか、分かりやすく解説しなさい。
- 問 4. 日本語の人称代名詞と考えられる語を挙げ、ここで述べられている代名詞と同列に扱うことができるかどうか、自身の考えを述べなさい。

令和9年度 第1回 京都大学大学院人間・環境学研究科 修士課程入学試験問題

専門試験

科目名：051.言語情報科学

(注意) 複数の設問がある場合、解答は、設問（ローマ数字のⅠ、Ⅱ……）ごとに別の解答用紙を用いること。

Ⅳ. 【選択問題】以下の英文を読み、設問に答えなさい。

Langacker, Ronald W. (2005) "Construction Grammars: cognitive, radical, and less so." Ruiz de Mendoza, F. J. and M. S. Peña (eds.) *Cognitive Linguistics: Internal Dynamics and Interdisciplinary Interaction*. Mouton de Gruyter.

- 問1. 下線部 (1) を日本語に訳しなさい。
- 問2. 下線部 (2) の内容を解説し、著者は *lexicon* と *grammar* に関してどのような見方をとっていると考えられるか、述べなさい。
- 問3. 問2で解答した著者の見方について、下線部 (3) の4つのパラメーターを用いて、具体的に論述しなさい。

令和 9 年度 第 1 回 京都大学大学院人間・環境学研究科 修士課程入学試験問題

専門試験

科目名：051.言語情報科学

(注意) 複数の設問がある場合、解答は、設問 (ローマ数字の I、II……) ごとに別の解答用紙を用いること。

V. 【選択問題】以下の会話文字起こしを読み、設問に答えなさい。

((近い時期に米国に住み始めた 3 人が車で移動している。エミは運転席、ナホは助手席、アキは後部座席に座っている。この直前では、化粧品の買い物について話していた。「ディオール」はブランド名で、「セフォラ」とは 3 人の住む町の中心部に店出している化粧品小売店のこと。なお、エミとアキは同年齢のため互いに常体で話すことが基本だが、年齢が上のナホに対しては敬体を使うことが多い。))

- 1 アキ: なんか、この辺で、ディオールって:, どこで売ってるかしー してますか?
- 2 (1.5)
- 3 エミ: >ナホさん<見つけまし[たよね一緒に.=
- 4 ナホ: [↑ん?
- 5 ナホ: =\$うんうん[うん.\$
- 6 エミ: [ディオ(h)ール(h) huh[huhhuh .hhh
- 7 ナホ: [なんて店(だっ[け)
- 8 エミ: [セフォラ.
- 9 (0.5)
- 10 エミ: あの[::,]
- 11 アキ: [あ、セフォ]ラの中[に () か:.]
- 12 エミ: [セフォラんなか入っ]てる[普通に.]
- 13 アキ: [うっそお.]

- 問1. 1 行目のアキの発話にグロスを付けなさい (発話を語ごとに分割し、品詞ないし文法範疇を記しなさい)。
- 問2. 12-13 行目における発話の重複について、なぜその重複が生じたと考えられるか、「移行適切場所」および「投射」という用語を用いて説明しなさい。
- 問3. Harvey Sacks は講義の中で、会話中の特定の場所において何かが不在であるということを「中身のある主張として述べる (non-trivial talk)」ために必要なことについて、次のように論じている*。

“Non-trivial talk of an absence requires that some means be available for showing both the relevance of occurrence of the activity that is proposedly absent, and the locating of where it should be looked for to see that it did not occur.”

上掲の会話事例の中から何かが不在であると言える場所を 2 つ見つけ、Sacks の言葉を正確に踏まえてそれらの説明を行いなさい。その際、その 2 つの場所の行為連鎖上の違いが明確になるように注意すること。